

プロジェクト報告書の学校HP公開（事業概要）

R7-R9年度

未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト

前事業（R4-6年度）の成果

- 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と学習評価の改善に向けた取組の浸透
- 各校の教育目標に基づいた各教科の身に付けるべき資質・能力の設定と、PDCAサイクルの確立
- 目標と、指導・評価・改善の取組の公開
- 1人1台端末の活用

前事業（R4-6年度）の課題と、社会からの要請

- 変化の激しい社会の中で新たな価値を創造する人材の育成に向け、現状の一斉授業スタイルからの脱却が求められている
- 1人1台端末を更に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実が求められている
- 課題解決型の探究活動やSTEAM教育等の教科横断的な学びの充実が求められている

多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりして学習を進めていく「生徒主体の授業への教育観の転換」を図ることにより、生徒一人ひとりの関心・意欲や特性に基づいた学びを実現する。 『山梨県教育振興基本計画』

3年間の具体的な取組内容

- ◆校内研修の実施
- ◆不断の授業改善
- ◆授業改善推進会議での情報共有
- ◆生徒・保護者、地域社会への取組の情報公開
- ◆プロジェクト報告書

年度末

- ◆プロジェクト計画書
- ・スクールポリシーを踏まえた各教科等の目標設定と共有
- ・生徒主体の授業への転換のための取組テーマ設定と共有
- ◆授業改善推進会議

◆授業改善推進会議

年度初め

- ・授業アンケートの実施と中間評価
- 結果の分析と共有
- ・授業アンケートの実施と年度末評価
- 結果の分析と共有

年2回

通年

- ◆取組テーマに沿った授業の計画と実施
- ◆各教科等の目標の実現に向けた授業の計画と実施

各校の取組テーマ例

- 自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
- 目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
- 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
- ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 文理の枠を超えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

各校の達成指標例（授業アンケート等に盛り込む）

- ・ 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的・自発的に取り組むことができた
- ・ 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うことができた
- ・ 授業や単元の始まりに目標を確認することができた
- ・ 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた
- ・ 授業や家庭学習でICT機器を効果的に活用することができた
- ・ 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる
- ・ 授業の中で各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った
- ・ 他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた
- ・ 学習した内容について、分かった点や分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができた

（概要説明） 県立高等学校の学力向上については、新学習指導要領の実施を踏まえ、「Active School Kai Project」(R4～6年度)において、学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントの一環としての「指導と評価の一体化」と、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した取組を行いました。今後も引き続き学習指導要領の着実な実施を目指すとともに、変化の激しい社会において新たな価値を創造する人材の育成に向けて「生徒主体の授業への教育観の転換」を図るために、「未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト」を、R7年度からの3か年計画で実施します。

プロジェクト報告書の学校HP公開（報告書の見方）

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)				
学校番号	学校名	●●高校	全・定・通	在籍生徒数 名
スクールポリシー (学力に関するもの)	各校で育成を目指す資質・能力に関する方針です。			
グラデュエーション ポリシー	生徒の卒業後の姿を見据えて、生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める方針です。			
生徒主体の授業への転換のための取組テーマ				
自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり 目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善 ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組				
具体的な取組				
生徒主体の授業への転換のための取組テーマをふまえた具体的な取組です。				
「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%) (各校の授業アンケートに基づく)			R7中間	R7末
1. 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う) 2. 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う) 3. 授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う) 4. 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う) 5. 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う) 6. 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う) 7. 授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う) 8. 他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う) 9. 学習した内容について、分かった点や、分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)			生徒アンケート結果の3学年分平均値です。	
総合評価 (学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)				
各教科の取組 ※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。				
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語		3.8	4.2	
地公				
数学				
理科				
英語				
芸術				
家庭				
保健				
情報				
総探				

教育目標や育てたい生徒像をふまえ、学習指導要領の理念とスクールポリシーに基づき、生徒の特性等を踏まえて、教科等の指導において育成する資質・能力を定めています。

生徒による達成度の5段階評価のアンケート結果です。年度の間と年度末の2回実施し、その変化を見取ります。そしてこの数値を一つの材料として、授業担当の教員の評価をふまえて、生徒の学習改善や教員の指導改善にかすことに活用しています。目標や取組は学校ごとに異なるため、他校の数値との単純な比較はできません。

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	16	学校名	笛吹高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	630名
スクールポリシー (学力に関するもの)		<ul style="list-style-type: none"> 探究を軸に各教科が横断的につながり課題設定・解決型の生徒の主体性を伸ばすカリキュラムを実施し、地域から期待される学校であり続ける。 普通科、食品化学科、果樹園芸科、総合学科の4学科からなる総合制高等学校である。4学科それぞれの特徴を生かし、生徒の興味・関心、将来の進路希望に応える多様なカリキュラムを配置し、生徒一人一人の進路実現に向けた教育を実践していく。 					
グラデュエーション ポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざし、地域に貢献できる人材を育成していく。 自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジし、広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる心豊かでバランスのとれた生徒の育成をしていく。 個を生かし、未来を拓く、自立した生徒の育成をしていく。 「学ぶための基礎力」「学びを広げる応用力」「自己実現のための行動力」を育成する。 					

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input checked="" type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input checked="" type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組
<input checked="" type="checkbox"/>	4学科の特徴を生かした、教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 教科横断STEAM型の新教科(笛吹グローバル)を設定し、地域社会との協働的な学びや探究的な学びを通して、言語能力、問題発見・解決能力および主体的な学びの育成を図る。 ICT学習支援ツールなどを活用して家庭学習を習慣化し、振り返りを記録することで主体的に学習する資質を育成する。また、個別学習や協働学習を通して情報活用能力を高める。 主体的・対話的で深い学びを通し、習得した知識・技能や収集した情報を状況に応じて選択、活用して考えを広げたり、他者の考えを受信し、状況に応じた適切で効果的な方法によって表現できる力を養う。 	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7年度末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	93.1%	92.7%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	86.9%	85.8%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	91.1%	87.2%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	87.0%	84.2%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	75.5%	76.7%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	90.9%	90.0%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	86.3%	85.2%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.8%	87.7%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	93.5%	91.0%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度への取組を含む)	
<p>笛吹グローバルを軸に各教科が横断的に繋がり、言語能力や問題発見・解決能力の育成への実践を重ねてきた。生徒のアンケート結果から、自ら学習方法を選択し、課題解決に向けて主体的に取り組んでいる様子が見取れる。また、学習内容をその都度振り返ることで個々の理解度に応じて次の学習目標を設定できている生徒も多い。今後は、各教科で学んだことを活かして自分の考えをまとめたり、別の場面で応用したりする力を養う授業を実践していくことと、ICT機器を効果的に活用できる能力を高めていくことが課題である。</p>	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	実社会に必要な基礎的な国語の知識や技能の習得に主体的に取り組む力。	4.1	4.1	実生活で使用する場面を具体的に想定しながら、必要な知識・技能を習得する機会を繰り返し設ける。
	習得した基礎的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力。	4.1	4.0	習得した基礎的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う場面を授業内で設定し、実践的に習得する機会を設ける。
	言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりとる能力。	3.9	3.9	授業や課題において多様な文章に触れ、読書する機会を増やす。言葉を通して他者や社会に関わる場面を設定する。
地公	現代の諸課題を歴史的な諸事象や地理的要素と関連させ深く考え、将来社会に主体的に参画できる力。	3.8	4.0	社会の中での出来事に興味・関心を持ち、自ら考え探究する姿勢を身に付けるためにも、基礎・基本的な内容をしっかりと定着させる。
	地理や歴史に関わる諸事象について多面的・多角的に考察し理解する力。	3.8	4.0	もの見方や考え方を多様化する視点を養うため、他者の意見を聞く機会や、グループ内で議論する時間を授業内で設け、視野を広げる取り組みを行う。
	身に付けた知識と知識を相互に関連付け表現したり、他者に自分の言葉で伝える力。	3.8	3.9	単元ごとの振り返りのための小テストやレポートの作成、表現力を高める論述問題への取り組みなどを通して、自分の考えを表現する力を高める。
数学	公式を理解し、正確かつ迅速に計算できる技能を身に付けることができる力。	4.0	3.9	授業や課題の中で多くのパターンの問題に取り組ませる。繰り返し演習させる機会を作り、正確さと迅速さを意識した指導を行う。
	身近にある事象を数学的に考え、数式やグラフなどの図を利用して表現し、その結果を解釈できる能力。	3.6	3.6	グループ活動やレポート課題を計画的に取り入れ、自らの考えを表現する機会を増やす。条件を変えて考察させたり、他の考えと自分の考えを比較させたりして発展的に考察できるようにする。
	授業や家庭学習でICTを積極的に活用して問題解決に取り組み、その過程を振り返りながらさらに考察を深めたり、課題解決に向けて粘り強く考えて解決しようとする姿勢。	3.6	3.6	ICTを自ら積極的に活用できるような課題やレポートの内容にしたり、活用法を具体的に示したりする。授業内で教え合いの機会を増やすことで、考えを深めたり粘り強く取り組む姿勢につながる。
理科	自然の事物・現象についての知識や、観察・実験などの技能を習得し、科学的に理解する力。	4.1	3.9	単元ごとのテーマに対して興味関心を抱かせる教材を開発する。
	自然の事物・現象について、科学的に思考や表現をしながら探究できる力。	3.9	3.7	自ら実験の手法を考えたり、結果について考察させ発表させる機会を増やす。
	自然の事物・現象に主体的に関わり、継続的に学びに向かうとともに、学びの成果を社会参画に活かそうとする姿勢。	3.8	3.7	社会的なテーマについて時間を取って考えさせたり議論したりする授業作りを推進する。
英語	日常的・社会的な話題について、読み取った情報や知識を相互に結び付け、概要や要点、詳細を目的に応じて捉え理解する力。	4.1	4.1	日常的・社会的な話題について、読み取った情報や知識を相互に結び付けるために、概要や要点、詳細を目的に応じて捉え理解できるように、授業における取組や活動を充実させていく。
	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、適切な根拠や事例を挙げて自分の考えや感想を論理的に話したり書いたりする力。	4.0	3.9	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、適切な根拠や事例を挙げて自分の考えや感想を論理的に話したり書いたりできるように、授業の学びを生かして多様な言語活動を展開していく。
	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、自分の感想や考えを主体的に伝え合い、社会にはたらきかけようとする姿勢。	4.0	4.0	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、自分の感想や考えを主体的に伝え合う機会を検証し、他者を意識した表現活動を工夫し、社会に働きかけようとする姿勢を育成していく。
芸術	芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための基本的な能力。	4.3	4.2	各科における芸術の諸活動を通して、基本的な知識・技能を高め、普段の生活に応用できるような指導内容の工夫・改善をしていく。
	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを味わったりすることができる能力。	4.4	4.2	芸術のよさや美しさを味わったりすることを通して「美とは何か」という価値観を育む活動を増やし、「美意識」を高めるための指導内容を工夫・改善する。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度。	4.2	4.1	各科における芸術の諸活動を通して芸術を愛好し、尊重する精神を養う指導内容の工夫・改善を進める。
家庭福祉	生活の営みを総合的にとらえ、社会との関わりについて理解を深め、専門職の知識と技術の習得をし、生活を主体的に営む能力。	4.1	4.1	実生活に結びつけた事柄を事例に出しながら授業展開し、実験や実習を通して、基礎的な知識と技術を身に付けさせる。
	他者の意見に耳を傾け、自身の考えを論理的に他者に伝える力。生活の中での課題を自分事に捉え、課題解決する思考力。	4.1	3.9	グループ活動を通して、他者の意見に耳を傾け、自身の考えを発表させることができた。生活の中での課題を見つけ、課題解決のために自分の考えをまとめて、表現する力を養う。
	継続的に様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に主体的に取り組んだり、地域の生活を構築し、実践する参画力。	4.0	4.0	単元を学習する前に目標を確認させ、振り返りを行うことを通じて、自身の学びの記録を残す指導をしていく。ICTの有効活用を行い、情報処理能力の育成を目指す。
保体	豊かなスポーツライフを実現するために、健康増進に必要な知識・技能を習得し、自他や社会の日常生活に還元する能力。	4.3	4.2	各種目や単元の学習を通して基本的な知識・技能を高め、日常生活に応用できるような指導内容の工夫・改善をしていく。
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、仲間と協力しながら課題解決の方法について考え伝える力。	4.2	4.1	自他の課題解決に向かって仲間の意見を聴きながら個別最適な学習に向かわせることができた。自身の日常生活の中での課題を見つけ、課題解決のために自分の考えをまとめて、表現する力の習得を目指す。
	生涯にわたり運動やスポーツに親しむ資質を育み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことで、豊かな情操を培う姿勢。	4.2	4.2	学習目標を明確にし、振り返りを通して、自身の学習を振り返る記録をつけさせていく。ICTの有効活用を行い、情報リテラシーや情報処理能力など保健の内容と重ねながら学習を進めていく。
農業	農業の基礎的・基本的な知識と技術を主体的に学び、学び続ける能力。	4.1	4.2	季節的な作業内容が多く専門用語や内容の定着が難しい。また同時期の実習内容が連続してしまうこともあり意欲低下にもつながるため、反復学習や実習内容の工夫、改善を行い意欲向上や主体的な学びにする。
	農業分野としての職業観を育成し、農業に対する未来観を持ち続け、発展的・創造的に実践する能力。	4.0	3.9	地域の課題や作物管理技術等の課題を明確にし、各科目においてプロジェクト学習の実践をとおして、幅広い農業分野を知り、農業の将来と地域産業への関心を高める。
	農業教科および行事を通じて地域や他者との協働を行い、広い視野とコミュニケーション力を身に付けようとする姿勢。	4.1	4.1	台湾研修やインターンシップ、地域のイベントなどに参加したり地域の要望を積極的に取り入れ、地域との連携を強化することで視野を広げ、コミュニケーション力の育成を目指す。
商業	生産・流通・金融など経済社会が取り巻く環境の変化がビジネスに及ぼす影響を理解できる能力。	4.1	4.0	経済社会の仕組みをきちんと理解し、点で理解しているものを線として理解できるような授業を展開する。複数の科目の内容が関連しているケースも多いため、科目横断的に学習できるような指導する。
	最新のビジネスの動向から社会的課題を発見し、地域産業や経済社会の持続的な発展のために課題解決の道を見出すことができる能力。	4.1	3.9	グループ活動やレポート課題を必要場面を取り入れ、課題に向かって時間をかけて考え、まとめ、表現する機会を増やす。
	ビジネスの動向課題について、自ら学びビジネスに主体的かつ協働的に取り組み社会に働きかける力。	4.1	3.9	学習内容を知識だけで終わらせないよう、新聞やニュース等を効果的に用い、学習内容が社会に密接に関わっていることを気付かせる。必要な場面で外部講師による授業も展開していきたい。

